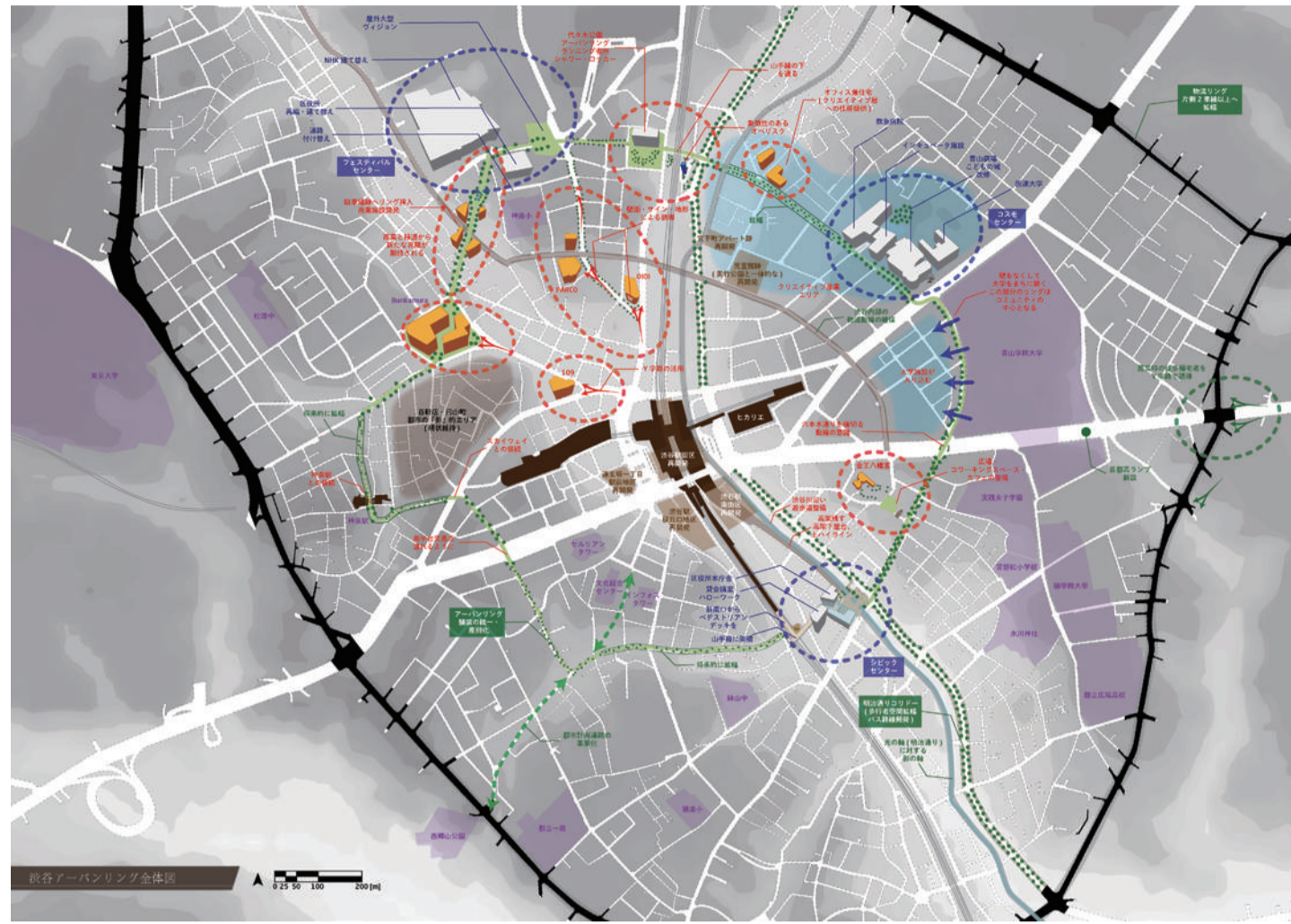


2013.6

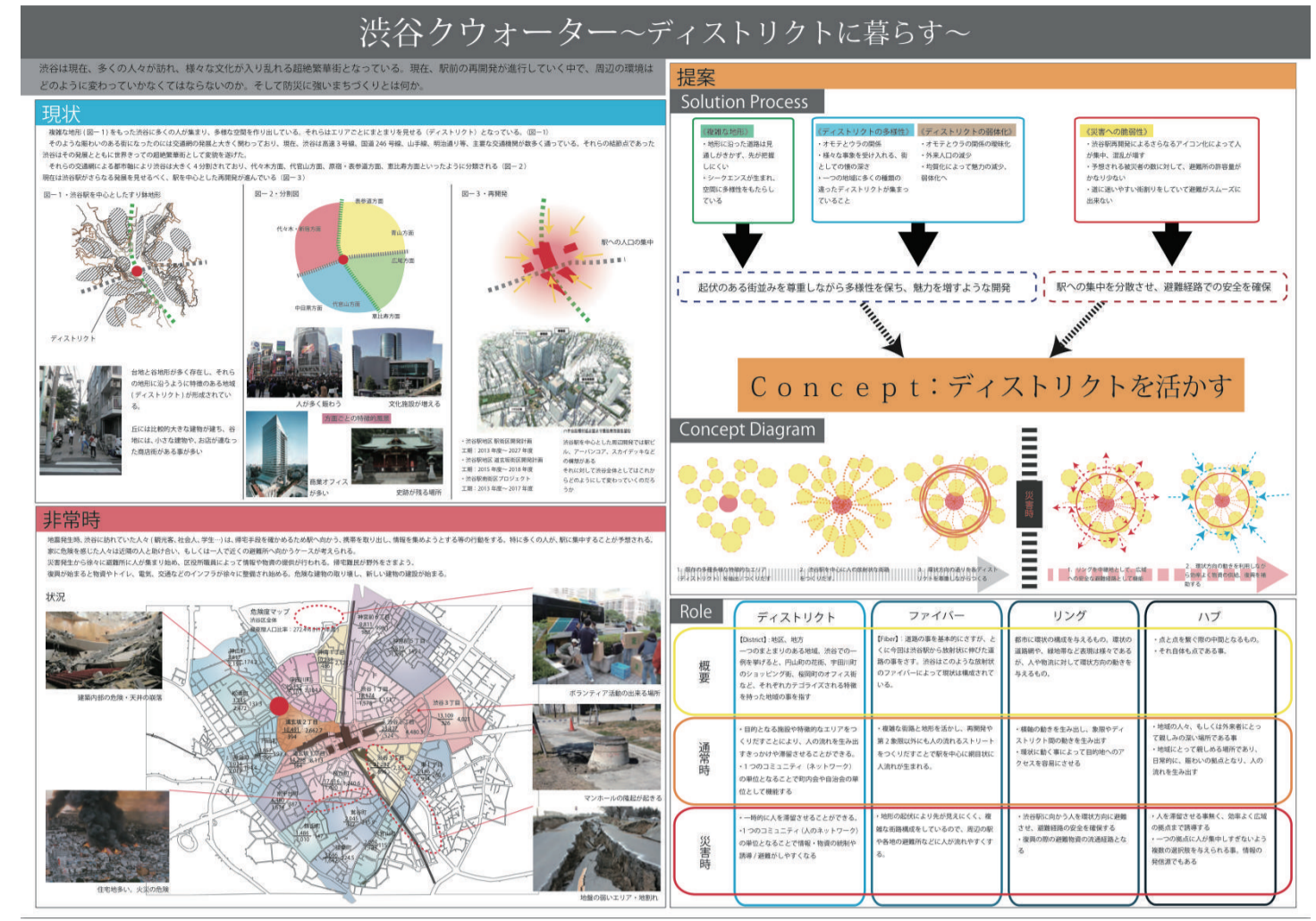
● 学部4年オムニバス演習 / 生き延びる渋谷

「近いうちに来ると言われている首都直下地震について、如何に備えるか？」今も変容が進む渋谷の中心市街地において、故・北沢猛先生の提案された環状の都市ネットワーク・アーバンリングを挿入することで、事前復興的に渋谷の防災性を高めることを目指した。

工学院大学・遠藤研究室との合同スタジオの実施（2013年度）



東大チーム：生きる、大地とともに



工学院チーム：渋谷クウォーター



繁華街の裏には駐車場が存在する

2014.5

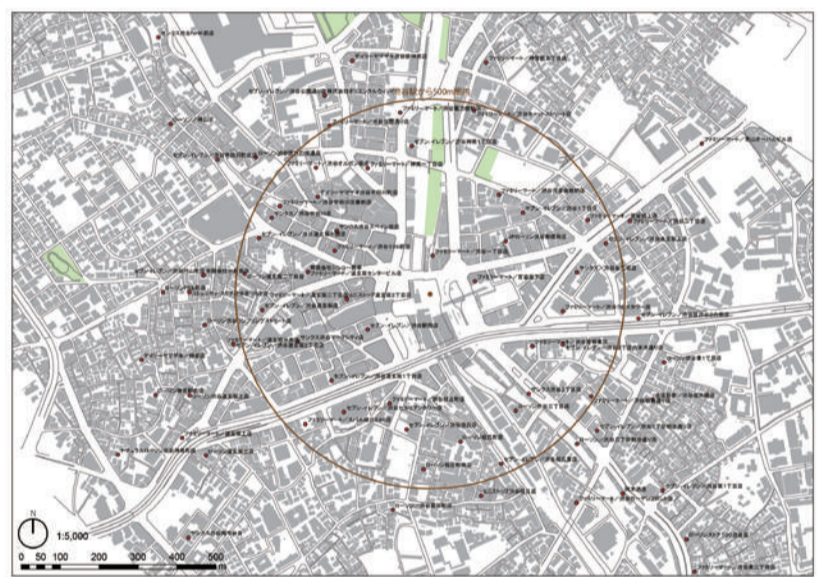
- 渋谷プロジェクトの発足
- 渋谷消防署・インタビュー調査

渋谷PJの目指すもの

「超絶繁華街の災害に対する Spatial Planning を考える」をテーマに、インタビュー調査・空間調査・制度やマネジメント調査を行っている。ここで、Spatial Planning という言葉を使用するのは、物的環境のみでなく、社会的環境も含んだ空間を研究の射程に含むためである。

2 超絶繁華街の空間調査

日常と非日常を繋ぐことが防災の論点の一つであり、その視点から渋谷の超絶繁華街の空間資源を洗い出す。コンビニ、待合場所（広場）、街路、駐車場、、、などが防災インフラになりうるのではないかな？



渋谷駅周辺のコンビニの分布



空間資源を洗い出す

2014.7

- 渋谷区防災課・インタビュー調査
- 東急電鉄・インタビュー調査
- 道玄坂・宮益坂代表・インタビュー調査

1 インタビュー調査で実態を把握する

認識

・3.11を教訓にし、帰宅困難者対策を重要な課題と認識している。
・非常時の連携プラットフォームの必要性から、協議会を運営し対策に当たっている。

実態

・何を対策していいのかわからない。
・協議会の組織化以上の備えができていない。

2014.9

- 工学院大学・村上先生インタビュー調査

2014.11

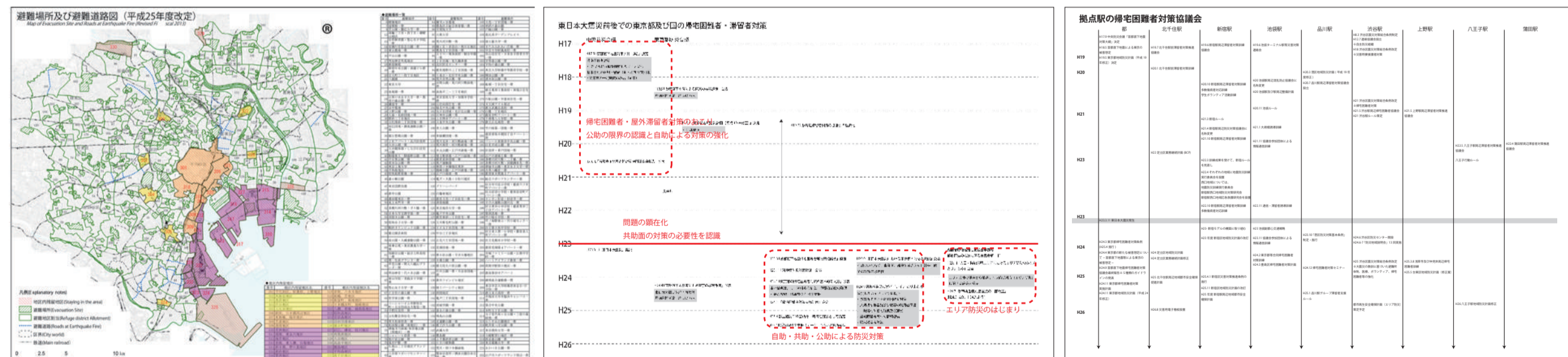
- 新宿区危機管理課インタビュー調査



(左) 渋谷区防災課インタビュー
(右) 商店会代表インタビュー

3 防災対応を支えるシステムの調査

特に帰宅困難者対策に焦点を当て、どのような制度やマネジメントが有効であるのかを探る。都内の多くが指定されている地区内残留地区も、大火の面だけで判断し、「思考停止」になってないだろうか？



(左) 地区内残留地区 (中) 帰宅困難者対策の流れ (右) 各駅ごとのマネジメントの仕組み

随時

- 空間調査
- システムの調査



「渋谷駅周辺地区における都市計画の提案について」より借用

2015年度取り組み

・マネジメントや制度の限界の存在。
・多くの人が何をやらたいのかすら分かっていない状況。
・繁華街防災の難しさ。防災インフラはあるのか？
・防災を取り入れた都市デザインとは何か？

2014 やったこと

発展

・2014年度の調査のまとめ、防災インフラを考える
→建築学会コンペへの参加
・防災の専門家へのインタビュー調査をアーカイブ化する。

2015 やること



帰宅困難者対策訓練の様子

2015

- 空間提案の実施（コンペへの参加）
- 「防災 × 都市デザイン」アーカイブの作成

参加希望者は

shibuyaproject@ud.t.u-tokyo.ac.jp

までご連絡下さい。

まずはコンペと一緒に参加して防災を考えたいという方も歓迎です！